

## 2017年度 シラバス情報表示画面

科目コード : 93613 単位数 : 4

科目名	地理学	科目責任者	仁尾 泰明
課題と試験担当教員	仁尾 泰明		
履修方法	T テキスト学習		
ナンバリング	CTETC240		

## ■ 科目概要

地理学の学問体系を見てみると、地理学は系統地理学と地誌学（地域地理学）から構成されます。地球上には、自然的にも人文・社会的にも著しい地域差が存在します。これは地理的条件を反映したものです。地理的条件には、地形、気候、土壌、植生、天然資源などの自然的条件と、文化・伝統、政治、社会、経済などの人文・社会的条件が含まれます。系統地理学は、地理的条件の生成とメカニズム、そして地理的条件の間について分析し、地球上の多様な現象を説明するとともに、一般的な原理を導き出すことを目的とします。このような系統地理学は、自然的条件を対象とする自然地理学と、人文・社会的条件を対象とする人文地理学に大きく区分されます。一方、地誌学は、系統地理学の成果を利用しながら、地域（場所）を総合的に理解することを目指します。（矢ヶ崎典隆他『地誌学概論』朝倉書店、2007による）

皆さんが、これから学ぼうとしている「地理」はテーマごとの分析を行う系統地理学の内容で、その学習対象は広く多岐に亘ります。

世界の各地域には人々の様々な生活が見られます。人々はそれぞれの自然環境と深く関わり合いながら、それらを生活の舞台として自分たちの知恵と努力によって特色ある生活を展開しています。世界の諸地域の自然、生活、文化、集落、経済、政治などを通して世界の人々を理解し、それらの知識を身に付けるとともに、地理的なものの見方や考え方を養います。

## ■ 到達目標

1. 世界の諸地域の自然、生活、文化、集落、経済、政治などを通して世界の人々を理解し、それらの知識を身に付けます。
2. 世界の様々な事象が関係し合って、人々の生活や地域が成り立っていることを把握し、地理的なものの見方や考え方を養います。

## ■ 科目の計画・内容

学習範囲 該当する章など	学習内容
第1章 第1節	地理学と地図の歩み 古代
第2節 第3節	中世 地理学の復興
第4節 第5節	大航海時代とその後の探検調査時代 近代地理学の成立と発展
第2章 第1節 第2節	地図と測量の基礎 地図の種類と利用 地図投影法図法
第3節	国土地理院の地形図
第4節	国土地理院における地形図の作成
第5節	空中写真の判読
第3章 第1節 第2節	地形と地図 地形学の基礎事項 世界の大地形
第3節	山地の地形

学習範囲 該当する章など	学習内容
第4節	平野の地形
第5節	海岸の地形
第6節	その他の地形
第4章 第1節 第2節 第3節	世界の気候区分と植生、土壌 気候因子と気候要素 大気の運動 気候区分
第4節	ケッペンの気候区分
第5節 第6節	世界の気候と植生 土壌の生成
第5章 第1節 第2節	世界の人口、国家、民族 世界の人口 国家
第3節 第4節	国家間の結び付き 人種と民族
第6章 第1節 第2節	都市村落と地図 村落の立地と形態 村落の発達
第3節 第4節	都市の立地と形態 都市の機能分類
第5節	都市の内部構造
第6節	地形図に見る都市と地形
第7章 第1節	世界の農林水産業 農産物の生産
第2節 第3節 第4節	世界の農牧業 世界の林業 世界の水産業
第8章 第1節 第2節	世界の鉱工業 世界のエネルギー・鉱物資源 近代工業の発展と工業立地
第3節 第4節	世界の主要工業 世界の工業地域
第9章 第1節 第2節	世界の環境問題 人間生活と環境問題、公害 熱帯林の破壊
第3節 第4節 第5節 第6節	砂漠化 酸性雨の発生 地球の温暖化 オゾン層の破壊
付章 1	地理学の研究法と効果（『人生地理学』より） 地理学研究法
2	地理学の効果及び必要

## ■ 学習方法・評価

種別	評価基準
試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の内容をきちんと踏まえているか。</li> <li>・課題に的確に解答しているか。</li> <li>・論理的に構成できているか。</li> </ul>

種別	評価基準
レポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の内容をきちんと踏まえているか。</li> <li>課題に的確に解答しているか。</li> <li>論理的に構成できているか。</li> </ul>

## ■ 評価方法

○科目試験：70%

○レポート：30%

## ■ 教科書

**書名**：地理

**著者名**：細井将右

**出版社名**：創大出版会

**出版年**：平13.6

**版**：初版

**刷**：

**ISBN**：978-4-86302-017-7

## ■ 参考書

各章の末尾に参考文献が挙げてあります。また、本書の末尾の「学習指導書」にも参考書があります。必要に応じて、利用して下さい。

## ■ 履修上のアドバイス

試験については、まず、教科書で試験範囲を正しく把握します。それを踏まえて、試験範囲の内容をよく理解しながら、熟読して下さい。しかも試験範囲のどこから出題されても解答できるように、試験範囲をしっかり読みましょう。決して山をかけないように。試験勉強を通して、教師になるために必要な知識と技能を確実に身に付けるのだという気持ちで臨むとよいです

レポートについて。レポートを作成する際に最も大切なことは、与えられた課題の題意をしっかり把握することです。課題が何を求めているのか、正しく認識し、それに対応した論理構成でレポートを組み立てていきます。なかには、これが不十分のいわゆる「的外れのレポート」が時々見受けられます。

次に、大切なことは、自分の言葉で綴るといことです。教科書の該当する箇所をそのまま丸写しにしたものや、教科書や参考書の文章を切り貼りした継ぎはぎのものがあありますが、いくら課題の題意を把握していても、レポートの価値はなくなってしまいます。平易な表現でもよいですから、内容をしっかり理解して自分なりの表現や言葉づかいでまとめて下さい。

さらに、大切なことは下書きの段階で十分推敲を行うことです。下書きをよく読み、レポートを何回もチェックしましょう。推敲を何度も行うことによって、レポートを書くことに慣れ、また、レポートの完成度が高くなります。推敲の時間も十分取るように心掛けましょう

なお、高等学校教育において「地理」を履修しなかった人は、高等学校用の『地理用語集』『地理事典』『地図帳』などを手元に用意して活用されるとよいでしょう。

それでも不十分な場合は、大学教養用の『地理辞典』（二宮書店）『最新地理学用語辞典[改訂版]』（原書房）『人文地理学辞典』（朝倉書店）『人文地理学事典』（丸善出版）などがあります。

教科書を丁寧に読み、わからない語句や用語がないように辞書などでよく調べ、その上で内容全体も正確に把握して下さい。大切なことは、通読のレベルにとどまらず精読することです。

## ■ 自習時間

個人差がありますが、レポート1課題あたりの作成に20時間程度、科目試験の勉強に40時間程度が考えられます。

## ■ 担当者のプロフィール

1949年に北海道函館市生まれ、神奈川県横浜市で育つ。  
関心を持つ分野は「地理学」「地理教育」「社会科教育」  
好きな言葉は「使命を自覚するとき、才能の芽は急速に伸びる」